

ショートステイの荷物チェック簡略化

事業所概要

- ・事業所名：特別養護老人ホーム百々千園
- ・サービス種別：介護老人福祉施設（定員：50人）・短期入所生活介護（定員：20名）
- ・介護職員数：29人（常勤19名・非常勤10名）
- ・プロジェクトメンバーの構成：介護職員（3名）、生活相談員、介護支援専門員、園長

取組に至った背景

- 現在、20名定員のショートステイを運営しており、1日平均3回程度の入退園があるため、その都度、衣類や貴重品の全ての持ち物チェックを行っていた。
- 入退園する時間が同時間帯に重複するため、何人もの持ち物チェックを同時に行なう必要があり、業務が煩雑になっていた。
- 荷物チェック中、ナースコール等の対応もしなければならぬため、荷物チェックを一時中断するなど業務に集中できないことが非常に負担となっていた。
- また、職員によって、衣類の見方や記載内容（種類・色・模様・形状等）にばらつきがあったため、職員間で混乱が生じることもあった。
- 職員の「間違えてはいけない」という精神的負担が大きく、職員は必ず1名を配置する必要があった。

課題解決のプロセス

- Step1
荷物チェック作業を確認し、必要な作業と不要な作業の洗い出し。
- Step2
不要な部分を削除。同時にチェック対象を貴重品に限定し、新たな様式を作成。
- Step3
実施日を決定。新しい方法に変更することを介護職員に周知。
- Step4
実施日2か月前に各家族及び居宅ケアマネ事業所に対し、文章にて周知。
- Step5
新様式を配布し、実施日より開始。

※取組時のポイント・工夫※

- (1)記載が必要な物と不要な物を洗い出す
聞き取りをしたところ、衣類を1枚ずつチェックして枚数等記入していくことが特に負担が大きかったことが分かったので、貴重品のみにし、衣類チェックをしないようにした。ただし、衣類の名前記入チェックは継続することとした。
- (2)家族やケアマネ事業所への通知等
実施日にゆとりをもって設定し、複数回に分けて家族に文章等を配布することで周知漏れをなくすことを心掛けた。



取組効果

【質的な効果】

- (1)職員の精神的負担が軽減された。
- (2)荷物チェックを素早く終えることができるため、本来の介護業務に集中できるようになった。そのため、利用者と接する時間が多くなった。

【量的な効果】

- 今までは、一連の業務に1件あたり約30分かかっていたが、10分に短縮できた。
- **1日3名の荷物チェックで、1日約60分時間短縮を達成(年間365時間短縮)**

同様の取組を検討している事業所へのアドバイス

- 職員が「間違えてはいけない」「記入漏れがあってはならない」という精神的負担を軽減することができる。
- 空いた時間を他の業務に回す**ことができ、職員にとって作業に余裕が生まれる。
- 家族に対し、まずは園の方針をきちんと理解してもらうよう、文書等による周知**することが大切
- 実際に衣類の紛失等もありえるが、その際は現在の園のやり方・方針を理解してもらえるよう、丁寧な対応が必要

